

PROGRAM

木管五重奏とサクソフーンによるフランス音楽の夕べ

第1部

《木管五重奏》

管弦五重奏曲

J. フランセ

《サクソフーンとピアノ》

アリアとブルチネラ

E. ボザ

室内小協奏曲

J. イベール

第2部

《管楽六重奏》

「子供の領分」より

C. ドビュッシー

・人形のセレナード

(編曲 大澤 徹訓)

・小さな羊飼

・ゴリウオーグのケーキ・ワーク

管楽六重奏のための「春」

H. トマジ

スカラムーシュ

D. ミヨー

四季のコンサート 冬

1986年12月2日(火) PM6:30

浜松市民会館ホール

主催：浜松音楽友の会

1987年春のコンサート 1987年4月1日(日) P. M. 6:30
歌の夕べ 大島洋子 青山智英子 黒田晋也 大島幾世

大室勇一氏に師事。

コンセルヴァトワール尚美音楽室員、東京 桜成ウィンド
オーケストラ、A-Sax奏者として活躍する他、リサイタ
ル、室内楽の分野、FM放送などで幅広い演奏活動を行っ
ている。

(アメリカ、メリーランド大学)に出演。

1985年 第8回ワールド・サクソフーン・コンプレッス

と協演。

記念演奏会で新日本ソルバルハーモニー交響楽団

部門第1位入賞。

第1回日本管楽器コンクール・サクソフーン

管楽奏曲を大オーケストラと協演。
芸大新卒業生紹介演奏会にて、トマシのサクソフ

1984年 同大学卒業。

1983年 東京芸術大学内にて安宅賞受賞。

入賞。

1982年 第51回日本音楽コンク
ル管楽器部門1位なしの第2位

会館推薦音楽会に出演。

1981年 静岡県音楽コンクール
楽器部門第1位入賞。東京文化

科入賞。

1980年 東京芸術大学音楽部器楽

北高等学校を卒業。

浜松に移り、南陽中学校、浜松

1961年 佐賀県に生まれる。後に

須川展也 (すがわ のぶや)

フルート



アルト・サクソフーンと 木管五重奏の夕べ

アルト・サクソフーン 須川展也

ピアノ 小柳美奈子

ルヴァンヴェール木管五重奏団

プロフィール

ルヴァンペール木管五重奏団

大澤 明子 (フルート)

東京芸術大学大学院修了
1982年 安宅賞受賞。

富田 和子 (オーボエ)

国立音楽大学卒業、現在神奈川フ
ィルハーモニー団員。

加藤 明久 (クラリネット)

国立音楽大学卒業、矢田部賞受賞。
現在 東京クラリネット アンサンブ
ル団員。

菅原 恵子 (バスーン)

武蔵野音楽大学卒業、現在新星日
本交響楽団団員。

藤田 乙比古 (ホルン)

日本大学芸術学部卒業、イギリス、
ギルドホール音楽院留学。
1980年 カットレー室内楽賞受賞。

1982年10月に結成。'83年9月 日黒区民
センターにてデビューリサイタル。同年10月
第18回民音室内楽コンクール第二部門で第1
位入賞。NHK・FM、FM東京で録音。
'84年杉並公会堂で第2回リサイタル。広島
県竹原市へ演奏旅行。'85年6月石橋メモリアル
ホールで第3回リサイタル。8月、横浜・
山手ゲート座にてコンサート。9月、第34回
ミュンヘン国際音楽コンクール木管五重奏部
門に木管五重奏としては日本人で初めて参加
し、アメリカ・フランス勢を抑え、ファイナ
リストになる。'86年6月 石橋メモリアルホ
ールで第4回リサイタル。この間全国各地で
コンサート、クリニックを行う。メンバーは
全員20代なかば、完全固定メンバーで活動
している日本では数少ない木管五重奏団。実力
は各方面より賞讃されている。'87年2月には
東京文化会館小ホールにて第5回リサイタル
又6月には横浜・山手ゲート座にてコンサ
ートを予定している。

小柳 美奈子 (こやなぎ みなこ)



1981年
新潟県音楽コンク
ール大賞受賞。
1983年
県立高田高等学校
卒業。
1984年
東京芸術大学器楽
部ピアノ科入学。

・現在、同大学4年在学中。
・ピアノを安川加寿子、梅谷進、泰はるひの
各氏に師事。

管楽五重奏曲

ジャン・フランセ (1912 ~)

今日のフランスでラヴェルやブーランクの作品に見られた喜遊性と気品の高い芸
術的創作とを非常に見事に融合させている作曲家と言え、誰でもジャンフランセ
の名をあげるのではないだろうか。彼は極めて音楽的な環境で、少年時代より楽才
を発揮しており、6才の時にピアノ曲を、20才の時には、最初の交響曲の作曲をし
ている。又ピアニストとしても活動しており、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団
が彼のピアノ協奏曲を初演する際に独奏を務めたのは、作曲家自身である。近年は
自分の娘たちにピアノをまかせ、指揮者として自作等を演奏するようである。

彼が20才を迎えた1932年以来、ほとんどあらゆるジャンルにわたって作品を発
表しているが、この五重奏曲は、1948年 作曲家36才の時の作である。

曲は、明朗で、くったくのない、そして特有の喜遊性・軽快性、そして時にユー
モアを含む四つの楽章から出来ている。難しいアンサンブルの要求させる曲である
が、各楽器の特色が生かされた作品で、木管五重奏の名曲の一つである。

- | | |
|------|---|
| 第1楽章 | アンダンテ・トランティーロ — アレグロ アッサイ |
| 第2楽章 | プレスト トリオと記された中間部 (ウン・ボコ・レント) と
プレスティッシモに至るコーダつき。 |
| 第3楽章 | アンダンテ 第5変奏までの変奏曲形式。 |
| 第4楽章 | テンポ・デ・マルチア・フランチュゼ (フランス風行進曲のテ
ンポで。) |

曲目解説 藤田 乙比古

室内小協奏曲 (コンチェルティーノ・ダ・カメラ)

ジャック・イベール (1890~1962)

本日演奏する6つの楽器のうち、一番歴史の浅いのがこのサクソフォーンです。
とかく機能的になりがちな現代の楽器のなかでは多くの素晴らしい演奏家達の手によ
って芸術的に認められていた数少ない楽器の一つです。そしてこのイベールの
協奏曲が作られ演奏されるようになってからは、クラシック音楽界においてない
楽器となりました。13分弱の短い曲の中に、数多くの要素、魅力がちりばめられ
ています。シンコペーションやデミニッシュスケール等、ジャズの影響が見られま
す。曲は2つの楽章よりなり、第2楽章はラゲットの憂うつなブルース調なものが
切れ目なしに躍動的なしらべに変わってゆきます。この洗練された世界にイベール
の「生粋のバリ子」を感じます。本日はピアノとのデュオで演奏致します。

「子供の領分」より

クロード・ドビュッシー (1862~1918)

ドビュッシーはフランス印象主義の音楽を築いた、音楽史上重要な人物です。数
多くのピアノ曲、管弦楽曲を聴いてわかるように、どの作品をとっても色彩豊かで
まるで絵画を覗いているような錯覚にとらわれます。「子供の領分」は愛娘にささげ
たピアノ小品集で6曲から成ります。管楽器での演奏困難な曲を除き、大澤氏のス
ペシャルアレンジメントで演奏致します。このめずらしい管楽6重奏によって新た
な音の世界を繰り広げていきます。

管楽6重奏のための「春」

アンリ・トマジ (1901~1971)

トマジはコルシカ系の人で、パリ音楽院に学びました。1930年代にはインドシ
ナ放送の音楽監督をつとめ、東南アジアにも通じた作曲家です。

この曲 (1963) は、木管五重奏とサクソフォーンからなる室内楽曲です。鳥の
さえずりをテーマとして、それを見事に音楽化しています。「鳥の目覚め」「愛の
歌」「鳥のダンス」の3つの部分から構成されています。6つの楽器それぞれに、
いろんな鳴き声が出てきます。美しい音や、けたたましい音、いろいろな鳥を思い
浮かべながらお聴きください。

「スカラムーシュ」

ダリュース・ミヨー (1892~1974)

ミヨーは第1次大戦後のフランス6人組の中心人物。モリエールの児童劇「空と
ぶお医者さん」(1937)のために書かれ、この中から後に「スカラムーシュ」
(同年)と改作されました。「スカラムーシュ」とは辞書には「イタリア笑劇の道
化役」(黒ずくめの衣装にギターを持った空威張りする役者)とありますが、こ
の曲をきくにあたっては、あまり心にとめる必要もないでしょう。

この曲はピアノの連弾として知られていますが、作曲家自身の手でサクソフォ
ーンのためにも書かれています。第3楽章のサンバは有名で、一度はきいたことのあ
るメロディーだと思います。

サクソフォーンで演奏する場合はピアノの伴奏がほとんどですが、ここに木管五
重奏との編曲版があり、紹介したいと思います。

とても可愛いらしい魅力的なアンサンブルがきかれると思います。

曲目解説 須川展也